

千葉演習林 ボランティア会

Abies 通信 (No.3)

2005.8.20

もくじ

1. 6 月度 ボランティア活動の報告
2. 7 月度 (第 1 回) 活動: 夏の森林教室 の報告
3. 7 月度 (第 2 回) 活動: 高校生のための森と海のゼミナールの報告
4. 9 月度活動 (臨時): 歩道巡視・自然観察・郷台宿泊研修のご案内
5. 10 月度活動: 歩道修理 のご案内

6 月度 ボランティア活動報告

ボランティア 相川 美絵子

6 月度のボランティア活動の作業は下刈りと苗畑除草の予定でしたが、最初の 6 月 16 日は朝からあいにくの梅雨で雨が降っていました。

今日は屋外作業が無理な状況なので、清澄講義室で間伐する木の標識に使うプラスチック製のテープ (すずらんテープ) を約 1m に切ってまとめる作業をしました。参加者 6 人全員で作ったので、完成したテープの本数は 1,260 本にもなり、これだけのテープがあれば、間伐木を選木する標識に有効に活用できます。

また、隣の作業所でスチールワイヤーの「段落し加工 (ワイヤー通し)」を職員の唐鎌さんが実演していましたので、見学・体験をすることにしました。「段落し加工」とは直径 3cm くらいの太いスチールワイヤーの端をほぐし、戻して編みこみ、端に輪を作るという加工方法です。滅多に体験できないことなので、私も 1 つ作らせて頂きました。見ていると簡単そうなのですが、力はあるし、どこにどうワイヤーの芯線を通せばよいか訳が分かりませんでした。しかし親切に指導してもらってなんとか完成しました。ところどころゆるんでいますが、完成した感動のあまりデジカメで写真をパチリ、記念に撮りました。



唐鎌さんの鮮やかな手つきによる段落し加工

午後は輪切りになっている樹木の年輪解析を清澄講義室で行いました。対象の木はモミ・コウヨウザン・ホルトノキです。年輪を数え、5年輪ごとにマチ針で印をつけて距離を測定します。成長が良くないところは年輪が非常に細かく数えにくかったのですが、だんだん慣れて分かるようになってきました。しかし、針葉樹のモミやコウヨウザンは比較的年輪がはっきりしていますが、広葉樹のホルトノキは年輪がはっきりしないので最後まで数えづらかったです。年輪幅が狭いところは周りの木が混み合っていて日陰になった時期、年輪幅が急に広がると間伐で明るくなった時期、などと木に刻まれた歴史を想像しながらの作業でした。

夕食時にはDNA解析をしてモミの親子関係を研究しているという森圏管理学研究室の齊藤陽子さんと一緒になり、DNAの話や、その他千葉演習林ボランティア会 Abies で今後やってみたいことなどの話で盛り上がりました。

翌6月17日は天気が回復して、川台17林班D4、D5小班で念願の下刈り作業を行うことができました。この場所は先月、苗の成長測定を行った場所です。雨あがりだったため最初は大鎌の切れが良かったのですが、旺盛に茂るタケを切るうちだんだん切れ味が悪くなってきました。そこで昼の食事に戻った時に札郷作業所で鎌砥ぎをしました。自分でといた鎌を午後から再び使うことで、砥ぎ方のよし悪しが分かるという仕組みです。ちなみに私の砥いだ大鎌は案の定、午前中と同じ状態でした・・・。



タケの茂る中での下刈り作業

午後は演習林の職員も加わっての同じ場所での作業です。職員の方は刈払機で苗のないところ、私たちは下刈鎌で苗の周りというように手分けをして作業をしました。刈払機が早いことを少しうらやみながら、区画内すべての刈払いが完了しました。

作業が早めに終わったので清澄作業所に戻って、石川さんによるデジカメの講習会をしました。カメラをしっかり固定する基本を守れば、ほとんどの写真がぶれないことが分かって自信ができました。今後もたくさんの写真を撮りたいです。

*年輪解析をした樹木の解説

モミ まつ科

本州から屋久島低山帯にはえる常緑針葉樹の高木で高さ30から50mとなる。ツガと共に千葉演習林の天然林の上層高木樹、学名はAbies。千葉演習林ボランティア会 Abies の名の由来

コウヨウザン すぎ科

広葉杉と書く、中国から江戸時代に渡来したカヤに似た常緑針葉樹の高木。高さは30m近くになり、神社や寺院に植えられる。

ホルトノキ

ほるとのき科

本州千葉県南部から九州にはえる高さ20mほどの常緑広葉樹の高木。オリーブと実が似ているので間違えられ、オリーブはポルトガルの木であるのでホルトノキと名付けられた。

7月度（第1回） ボランティア活動報告

夏の森林教室 ～学ぼう！房総の自然「森の落とし物（めぐみ）」～

ボランティア 恵 京子

7月18日に春や秋の一般公開の場所でもある猪ノ川溪谷と郷台作業所近郊を会場として夏の森林教室～学ぼう！房総の自然「森の落とし物（めぐみ）」～が開催され、われわれボランティア会も体験・スタッフとして参加しました。

当初の参加者の募集人員は60名の予定でしたが、希望者が多く増員して最終的には一般参加者79名、林長はじめ職員22名、森林インストラクター4名、ボランティア会 Abies4名の総勢109名で、梅雨明けの晴天の下、盛大な自然体験の教室となりました。

7月7日の下見会も含め、今回は岩崎さんご夫妻、石川さん、恵の4名が参加しました。他に一般参加として会員の田生さんも参加されました。

下見の時は、雨が続けていた直後でもあり、当日の予定コースである「郷台作業所」の近くの「モミ・ツガ天然林自然観察路」は足元がかなりぬかるみ、しかもヤマビルが多く発生していたので、対策が必要となりました。しかし本番は通路もしっかりと整備され、ヤマビル対策として木炭製造過程で出る炭を通路に敷き詰めることもなされていたので混乱することなく歩く事ができました。

当日、われわれボランティア会メンバーは、朝8時半に清澄作業所に集合、マイクロバスに乗り換えて、片側が切り立った崖の「郷台林道」を職員の塚越さんのいつもながらの上手な運転に感心しながら、参加者が集合する「上総亀山駅」へ向かいました。ここで参加者の受付と班分けが行われ各班に分かれ、手作りのビャクシンの木でできた名札をつけてもらい、それぞれマイクロバスで出発地の「黒滝」と「郷台作業所」に移動しました。それぞれの班毎に自己紹介をしあって、一日がスタートしました。

観察路のステップに、丸太ではなく、割られた木が使われていたのには、感心しました。山を歩く時、整備された歩道で、擬似木やつるっとした丸太で足を滑らしそうになったことがたびたび、ステップのない地面をよって歩いた経験があるからです。ボランティアの活動の一つである歩道整備にも是非参加したいと考えました。

私は、山中(征)先生と一緒にサワガニ班で「郷台作業所」に行き、マツ・スギやヒノキの苗畑、67年目に花が咲き、枯れて更新しているモウソウチク林、モミ、ツガ天然林観察など見学体験した後に、山本林長より「森のめぐみ」について講義を受けました。昼食休憩後、ぶり縄体験、丸太切り、相ノ沢スギ品種展示林の見学などフリー参加



丸太切りに挑戦！

の行事があり、私は相ノ沢見学に参加しました。午後からはマイクロバスで楢ノ木下まで移動し、黒滝まで散策しました。子供たちはぶり縄や丸太切りに挑戦しておおはしゃぎでした。



涼しい猪ノ川の河原で水遊び

今回はお子さんの参加が少なかったのですが、お子さんを含む班には、午後から楢ノ木下の河川で遊ぶプログラムがあり、水の中では歓声が上がっていました。

通称ヒル博士の山中(征)先生の説明は最初から最後まで、ユーモアあふれ、わかり易く、参加された班の皆さんも納得、満足され、一日を楽しく過ごされた事と思います。研究

の裏話なども聞かせていただき、研究が長い歲月、何世代にも受け継がれていくものであることなどを教えていただきました。

山本林長からは、森の木々など植物が、光合成で問題になっている二酸化炭素(地球温暖化ガス)を私たちが呼吸するに欠くことのできない酸素に変えてたくさん排出し、炭素固定をすること、森から染み出した一滴一滴の水が、養分を含んだ流れを作り、私達に命の水を供給し、海に注ぎ、豊かな漁場を作るとの講義を伺い、森を守るボランティア会の一員となり、微力ではあるけれど、地球を守り生命を守るお手伝いをさせていただいていると実感、感激しました。

こんな嬉しい事はないと更にボランティア活動に精を出そうと、決意も新たにすることができました。

解散は今朝集合した「上総亀山駅」で、皆さん心地よい疲れと充実感で帰宅されました。われわれボランティアのメンバーもマイクロバスで鴨川有料道路を經由して清澄作業所まで送ってもらい、すべて終了解散となりました。

最後に今回の森林教室で見聞きした千葉演習林の多彩な生き物の一部を紹介します。

7日の下見：イワタバコ、ひときわ白い花が清々しいヤマアジサイ、ピンク色の花が咲くクサアジサイ、ネムノキの花、マタタビの白い葉と虫こぶの実、珍しいツチアケビの花

18日の当日：クサアジサイの可憐な花、タマアジサイの蕾の玉、ミヤマトベラの花、動物の住処？(木の根元に大きな穴)、マユミの実、香りのあるヤブニッケイ、ヤマコウバシ、シキミの葉、ムクロジの実、アリジゴクの巣、トンネル内のキセキレイの巣跡、モリアオガエルの泡につつまれた卵、カジカガエルの鳴き声など

7月度（第2回） ボランティア活動報告

高校生のための森と海のゼミナール ～自然の中で考える環境問題と生物多様性～

ボランティア 石川 輝雄

「東京大学科学の森教育研究センター（千葉演習林）」と「千葉大学海洋バイオシステム研究センター」の主催で平成17年7月26日から28日までの3日間にかけて「高校生のための森と海のゼミナール」が行われ、ボランティア会から岩崎夫妻、恵さん、石川の4名が体験・スタッフとして参加しました。

参加した高校生は男性5名、女性7名、計12名で出身校は千葉県4名、東京都6名、神奈川県1名、栃木県1名です。

当初の計画では、最初の7月26日は「札郷学生宿舎」を宿舎にして周囲の里山林、見本林、原生林などの森を歩き、夜はニホンジカの夜間観察を行う予定でしたが、台風が上陸して雨風が強く、外のプログラムは困難となったので、「清澄学生宿舎」での講義と宿泊に変更となりました。

講義内容は山中（征）先生の「千葉演習林概要」、「ニホンジカ、ヤマビルの生息数と生態」から始まり、池田先生の「ヒメコマツの保護と増殖」、蒲谷先生の「房総の自然」などに加え、生物多様性研究室の鈴木さんの「ニホンジカなど野生生物とのつきあいかた」、院生の寺田さんの「生物間の相互作用（ニホンジカとアオキの関係）」など盛りだくさんで中身の濃い内容でした。高校生には少し程度の高い内容に思えたが最後まで熱心に聴講していました。夕食のあと「森林博物資料館」の見学があり、明日天気が回復することを願って眠りに入りました。

翌7月27日は台風一過の良い天気とはいえないが、雨の心配はない状態となり、野外観察が主体となりました。高校生達は普段、履きなれない地下足袋とヤマビル対策の塩靴下（靴下を濃い塩水につけて乾かしたもの）を履くのに四苦八苦しなから、なんとか履いてマイクロバスに乗り組みました。



初めての地下足袋を苦労しながら履きます

「郷台林道」に入り、すぐ途中下車して、ヒメハルゼミの鳴き声やカワセ

ミの巣跡などをみながら、特別自然保護区の「荒檜沢モミ・ツガ天然林」の中を歩き、続いて「今澄スギ老齢人工林」を観察しました。今澄のスギは演習林創設以前に植えられたもので樹齢は150年近くの立派なものです。

ふたたびマイクロバスに戻り、次に「袋山沢水文試験地」と「柚ノ木二段林試験地」を観察しました。この二箇所は春秋の千葉演習林の一般コースにもなっている場所です。高校生たちは各々職員から解説を受け、地道に何代にもわたって引き継がれている研究を認識できたと思われま。

さらに郷台作業所の近くまでマイクロバスで戻り、千葉演習林の三大美林のひとつである「牛

蒔沢スギ人工林」を見学しました。このスギは 1905 年（明治 38 年）に植栽された演習林創設期の造林地のひとつであり樹齢は 100 年にもなります。

少し遅い昼食を郷台作業所でとり、その後、「造林用のマツ、スギ、ヒノキの苗畑」、「モウソウチクの開花寿命試験地」、「相ノ沢スギ栽培品種展示林」などの説明を受け、郷台林道を清澄まで戻り、引き続いて、安房小湊の海岸にある「千葉大学海洋バイオシステム研究センター」に到着しました。

最初の計画では磯に出て、海の生物を観察する予定であったが、昨日の台風のうねりの影響が残っているので、変更して「顕微鏡によるプランクトンの観察」をしました。各自 1 台ずつ専用の顕微鏡を与えられ、植物や動物性プランクトンを実際に目で確かめました。



顕微鏡でプランクトンを観察

再び「清澄学生宿舎」に戻り、夕食の後に「森林と人間のかかわり」について山本林長、「森のつくり方」について鈴木（誠）先生より最後の講義を受けました。

その後、自由参加ではありましたが、結局全員が参加して「郷台林道」に「ニホンジカの夜間観察」にでかけました。大人数のせい、シカを観察することはできませんでしたが、一面の星空と鴨川の海のいさり火を遠望して帰ってきました。

最終日の 7 月 28 日は非常に良い天気となりました。マイクロバスで「千葉大学海洋バイオシステム研究センター」に出かけ、最初に「海藻類に関する講義」を受けました。地球 45 億年の生命の進化の歴史の中で、らん藻、緑藻、褐藻、珪藻などの海藻類が、生命進化の重要な位置づけをもったことについて解説いただきました。

その後、準備をして、センターの前の磯にはいり、海藻をはじめ、貝、魚、カニなど多彩な「海の生物を楽しく観察」しました。

最後にセンターに戻り、山本林長及び宮崎センター長より、全員に修了証が渡され昼食後解散となりました。

台風が上陸するというアクシデントもあり、当初計画されていた、「炭窯見学」、「樹木の身体測定」などできなくなってしまったプログラムもありますが、3 日間にわたった盛りだくさんで中身の濃いゼミナールは高校生たちに色々と印象深いものがあったと思います。

私たちもスタッフというかたちで、どれだけ役に立てたかは疑問ではありますが、千葉演習林および千葉大学バイオシステム研究センターの中身をより深く理解することができ、ボランティア会を今後どのように運営していくのがよいのかの大変重要な参考となりました。

高校生も非常に満足して帰りましたが、私たちがそれ以上に満足した感じです。

ゼミナールの企画、実行に貴重な時間をさいていただいた先生方に本当に感謝します。

後日談ですが、このゼミナールに参加した高校生 2 名が私たちのボランティア会に入会、活動してくれることとなりました。活躍を期待するとともに、ボランティアの輪が更にひろがればと思っています。

9月活動(臨時)のご案内

～ 歩道巡視ボランティア・自然観察・郷台宿泊研修～

休日に千葉演習林ボランティア会 Abies 会員のなるべく多くの人と一堂に会したいという希望と、千葉演習林の郷台は人家から離れているために夜空がきれいだろうね、と話をしたところから、郷台に泊まりお月見を兼ねて、一般公開のコースの歩道巡視ボランティアと自然観察研修をしよう！という企画をいたしました。

宿泊をする郷台宿舎は自炊の宿泊施設で、最近新しいソーラー発電機が付き、畳替えもしたので居心地が良くなっています。

1日目は草川原駐車場から黒滝を経て郷台へ、2日目は郷台から柚ノ木歩道を登って三石山まで抜けるという春・秋に行われる一般公開区間をゆっくり歩いて林内の巡視をしながら、千葉演習林の自然や試験研究について研修します。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 平成 17 年 **9 月 18 日** (日・十五夜) ~ **19 日** (祝)(宿泊)

宿泊場所 郷台寄宿舍
(君津市折木沢 郷台作業所の TEL 0439-39-3121 携帯電話は通じません)

集 合 木更津方面から電車 12:54 上総亀山駅(木更津駅 11:50 発久留里線)
鴨川方面からバス 13:01 笹バス停(鴨川 12:40 発千葉行き的高速バス)
自家用車 13:00 草川原駐車場(地図参照)



草川原駐車場は国道よりも低い場所にあるのでご注意ください。メタセコイアが目印です。

解 散 19 日 13:00 頃

参加費 2,000 円(施設使用料 130 円、18 日夕食と 19 日朝食の食費)

持ち物 飲み物、野外活動ができる服装、靴(登山靴などしっかりしたものや地下足袋)、懐中電灯、寝袋または毛布、筆記用具、軍手、タオル、雨具、リュック、保険証のコピー、常備薬、マイカップ、宿泊用の道具、会員証、ランタン(持っている人のみ)など。徒歩で移動するためあまり重くならないようご留意下さい。

雨天時 雨天が予想される場合は中止します。(中止の場合は 17 日の正午までに連絡)

受付期間 8月22日(月)~9月11日(日)

申込方法 電話、FAX、E-mailのいずれかでお申し込み下さい。
申し込みの際、集合場所(上総亀山駅・笹バス停・草川原駐車場のいずれか)をお知らせ下さい。

キャンセル 買出しの都合のため2日前までご連絡下さい。

申込、お問い合わせ先

千葉演習林ボランティア会 Abies
事務局 石川 輝雄 宛
(連絡先は活動要項を参照)参加には年度ごとの会員登録が必要になります。

10月活動 歩道修理のご案内

日 時 平成17年 **10月22日**(土)(日帰り)

集 合 清澄作業所 9:40

解 散 同 16:00頃

内 容 歩道修理作業:歩道をクワでならしたり、丸太で階段を作ったりします。

作業場所 未定(決まり次第参加者に連絡します。)

持ち物 昼食、飲み物、野外活動ができる服装、靴(登山靴などしっかりしたものか長靴、地下足袋のいずれか。靴に土が入りやすい作業です)、軍手、タオル、雨具、リュック、敷物、保険証のコピー、常備薬、会員証など

定 員 9名程度(原則として申込先着順)

雨天時 状況により対応します。

受付期間 9月24日(土)~10月15日(土)

申込方法 電話、FAX、E-mailのいずれかでお申込下さい。

申込、お問い合わせ先

千葉演習林ボランティア会 Abies
事務局 石川 輝雄 宛
(連絡先は活動要項を参照)参加には年度ごとの会員登録が必要になります。

千葉演習林ボランティア会 Abies通信 No.3 2005/ 8/ 20 発行

*事務局 〒264-0032 千葉県千葉市若葉区みつわ台 3-1-2-102 石川輝雄

*東京大学千葉演習林 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770 TEL:04-7094-0621

FAX:04-7094-2321 E-Mail:chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp